



# かきつばた 2016



京都市立梅津中学校  
平成28年10月26日(水)

第9号 全国調査報道号

文責：校長・教務部

## 全国学力・学習状況調査 ☆本校の結果について☆



いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうのおく  
全国的に

- 基礎的な知識(漢字・慣用表現・書写などの定着)
- 伝えたい内容を整理して書き直す力
- 目的に応じて文章を要約する力
- 疑問に思ったことを調べる際に適切な本を探す力
- 課題が見られます。その全国に対して本校生徒は、国語A(主として知識において)2ポイント近く、国語B(主として活用において)7ポイント程度下回る結果となりました。

授業で繰り返し反復練習を行っている【漢字の読み書き】においては全国より+でしたが、「伝えたい事柄を効果的に伝わるように書く」「集めた資料を整理して文章を構成する」「文章の構成や展開に自分の考えを持つ」のような、【文章の読み書きにおける力】では、全国を4~10ポイントも下回る結果となりました。

図書館を利用して調べる【課題に応じて情報の収集方法を考える力】に関する問題は全国より大幅に下回り、難しい課題と言えます。これは、「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的に答えた生徒が15ポイント近くも全国を下回ったことも理由の一つと言えると思います。

図書館離れや読書嫌いが目立ち、生活中でも『活字』に触れる機会が少なくており、日頃から生徒自身が、「自分の感情や考えを的確に表す」ための語彙の少なさを感じます。日常触れる言葉に広がりがなければ、少ない語彙の中で何か課題を書こうとしても、「書けない」という悪循環に陥ることになってしまいます。

それでも「国語で学習したことは将来役に立つと思う」と全国平均より5ポイントも多く生徒が答えており、国語の学習の意義や将来性は感じています。しかし「国語の勉強は好きですか」という質問には全国比20ポイント近く下回るという結果を真摯に受け止め、国語科では、このような生徒たちに『国語の勉強は好き』を感じさせる授業が展開できるように、研修を深めていきたいと思います。

ご家庭におかれましては、是非とも読書の習慣が少しすす定着するようお願いいたします。読書には『漢字の読み書き』のみならず『言語を巧みに扱う表現力』の向上が期待できる効果があります。落ち着いて読書ができる雰囲気作りと、時にはお子様とともに読書をするなど、よろしくお願ひします。



- + - × ÷ + - × ÷ + - × ÷ + - × ÷ + -
- 全国的に
- 数学における基礎的な知識や意味をより深く理解する力
  - 問題解決の方法を数学的に(論理的に)説明する力
  - 聞かれた内容に対して的確に説明する力
  - 課題が見られます。その全国に対して本校生徒は数学A(主として知識において)1ポイント弱の差でしたが、数学B(主として活用において)は約3ポイント下回る結果でした。

授業で繰り返し反復練習を行っている【基礎計算問題】においては3ポイント近く上回る結果となりましたが、【数値或における知識や理解】には課題が見られ、「反比例のグラフから式を求める」「一次関数のグラフから変域を求める」問題については8ポイント前後下回りました。

さらに、【图形領域における知識や理解】に関する「三角形の合同を証明できる」問題が約10ポイント、また【資料の活用領域における知識や理解】を見る「相対度数を求める式を書く」問題についても15ポイント以上全国を下回り、大きな課題だと言えます。

### 【参考】京都市教育委員会広報資料より

②中学校調査(3年生) <公立学校>

	国語A	国語B	数学A	数学B
本市	75.9	67.8	63.4	45.6
京都府	75.8	67.2	63.3	45.0
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

○本市の平均正答率は、全教科において全国平均をそれぞれ0.3~1.5ポイント上回っています。

○昨年度との比較では、国語B及び数学ABで全国平均からの上回り幅が拡大しています。

○平成26年度以降、全ての教科において全国平均を上回っています。

**数学統計** これは生徒質問紙の「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、1時間未満と答えた生徒が17.6%も全国より多いことも原因の一つと言えます。これでは、【基礎的計算問題】以外の知識や理解を深める反復練習の時間や機会が確保されていないと思われます。

それでも「数学で学習したことは将来役に立つと思いますか」という質問には、全国比で8ポイント以上が肯定的に答え、数学においても学習の意義や将来性は感じていることがわかります。一方「数学の勉強は好きですか」という質問には9ポイントほど下回るといった結果です。数学科においても、楽しくよく分かる授業づくりへ改善に努めたいと思います。

ご家庭においては、是非とも学習の習慣が継続してついていくように、ご指導願いたいと思います。自主的に継続的に学習に取り組むようになれば、学力はもちろん社会に出たときにも必要となる「様々な数学的能力」の向上が期待されます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?

### 〈受業や学習について〉

正直に「勉強が嫌い」と答える生徒は全国を10ポイント以上も上回ることは本校の長年の課題で今年も同様でした。そこで本年度は「なぜ勉強するのか」「将来自分や社会に何の役立つか」について年度当初に、全校集会を開き、全教科担当がプレゼンしました。その後各教科の授業で、多方面から話をした結果、今回の質問にあった、「国語(数学)の学習は将来社会で役に立つと思うか」には全国平均を上回る生徒が「はい」と答えています。さらに国語(数学)の授業は大切と答える生徒も全国以上で、「苦手だけど、好きじゃないけど、がんばろう!」と言う生徒の気持ちがわかります。

それに応える授業づくりが我々に必要です。



またこれから社会に必要な学力と言われる「思考力・判断力・表現力・学習意欲・コミュニケーション能力」を育てる、調べ学習・話し合い活動・探究活動・発表などの機会は、全国平均より多かったのですが「発表が得意」「人の話が聞ける」の質問は平均に届かず、まだ身に付けさせることができていないことがわかりました。

### 〈見筆芭翁・諺哉や社会・地域・社会との関わり〉

言葉・約束・仲間を大切にする『梅津の志』に関する「学校の決まりを守っている」は全国平均近く、しかし「いいめはどんなことがあってもいけないと思う」は全国平均以上でした。社会にて「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒、「将来の夢や目標を持っている」生徒は5ポイント前後低く、さらに「自分にはいいところがある」という生徒は約20ポイント少なく、私たち大人が育て・教え・導かなくてはいけないことが多いことが分かりました。

地域社会との繋がりも課題であることは以前より明らかですが、今年度は地域向けの熊本物産展や吹奏楽部演奏会を開き、さらに生徒会では地域や清掃にも取り組もうとしています。地域の皆様には、もっと中学生に目を向けて頂き、生徒の活動を支援して頂くことで、逆に生徒が地域や社会の一員であると自覚すると思います。そのひとつが「いいことばの日」の地域展開です。これからもよろしくお願ひします。

### 〈生活習慣について〉

家庭での時間の使い方に大きな課題があります。これも長年続く傾向です。



例えば平日に「テレビ等を見ている時間」では、4時間以上と答えた生徒は全国の2.4倍です。さらに「スマホやPCでメールやネットをしている時間」では2.6倍、「ゲームをしている時間」では2.2倍です。京都府は全国より1~2割程度長いくらいですので、本校には長時間使いすぎの生徒が多いと言えます。

これがやはり家庭学習時間に影響しています。「家で学校の宿題をする」については全国と30ポイントしかかわりませんが、予習・復習などの平日の家庭学習が30分以下の生徒は1.7倍、全くしない生徒に限れば全国の2.2倍です。休日はさらに顕著で、1時間以下の生徒は1.8倍、全くしない生徒に限れば2.6倍です。実際に本校生徒の6割は休日の学習が1時間以下です。これでは学校での授業や家庭学習の効率をあげても、その内容の定着が図れず、今回の国語・数学の結果の大きな理由の一つになると思われます。

また起きる時間は比較的一定していますが、寝る時間が不規則で、計画的な勉強も苦手のようです。朝食を毎日食べていない生徒の割合も、全国より15ポイントくらい下回ります。保護者の皆様におかれましては、お子様が規則正しく生活を送り、毎日元気いっぱいに学校に登校できますように、ご協力ををお願いいたします。